

QSK 一人は皆のために 皆は一人のために

福岡県脊髄損傷者連合会
2016年10月10日

わだち

No.198

福脊連ホームページアドレス www.normanet.ne.jp/~ww101926/

ーハの園の行方.....ハの園より(3)

「相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で二六日未明の殺傷事件で容疑者、元職員の高松聖容疑者(二六歳)が逮捕された報道に「嘩然とした。なんだーと、なぜ・何故・どうして」あまりにも「衝撃的」で、二七日以降のマスメディアでの事件報道と事件に対する専門家のコメントなどを読んできたが、また事件の「真相・容疑者の兇暴的殺傷事件の背景(考え)は、まだ、断片的である。これまでのマスメディアや雑誌などでも「意識して」読んだ(限られているが)。私的な読みとりであるが、会員間での「思考経緯(受け止め)を問い続けなければならない課題」であり、避けてはならないことだと考える。限られた「情報」であるが、その経緯を辿る。

容疑者の言及と行動の経緯(七月二九日朝日新聞朝刊より抜粋)*二〇一二年のやまゆり園の採用試験の書類「学童保育で三年間働いていたこともあって、福祉業界への転職を考えました」*一五年一月、背中全面の入れ墨の写真をアップし、「会社にバレました。笑顔でのりきろうと思います。一五歳もがんばるぞー!」。*六月、偏見を持つことは愚かなことです。*
*一六年二月一四日、衆院議長あての手紙持参、しかし受付で手紙を受け取ってもらうことはできず、翌日、再度訪れて。そこで土下座して頼み込んだ事もあり、警備にあたった警察官が衆議院事務局に確認した上でしかたなく手紙を受け取っていました。(手紙の内容は後記述)。*一九日、園の聞き取りに「自分は間違っていない。」「退職する」としている。*同日、相模原市が精神保健福祉法に基づき緊急措置入院させた。同市の聞き取りに「自分はフリーメンソンの信者だ」と。*「会社は自主退職、このまま逮捕されるかも」。*二〇日、入院先の医療関係者に「一週間前にヒトラーが降りてきた。」と言及。*七月二六日、事件直後午前二時五〇分に「Beautiful Japan 1...」*(※は植松容疑者のものと見られるツイッターの書き込み)

《わだち目次》

!この国のゆくへ.....ハの問い!(3)1P
差別県禁止条例制定の依頼書(2)5P
司法と福祉の架け橋8P
JR九州筑豊本線(若松線)DENCHAデビュー14P
平成27年度「使用者による障害者虐待の状況等」の結果15P
福祉用具レンタルの原則自己負担方針16P
障害者の権利に関する条約第1回日本政府報告(案)(日本語仮訳)「参考資料2」より17P
そうめん販売還元金報告書19P
今月の時事20P

差別禁止条例制定の依頼書(2)

会長 藤田 幸廣

ヒアリングにあたって

前文(抜粋)

前号の続ぎです。

(a) この条約に合致しないいかなる行為又は、慣行をも差し控え、かつ、公の当同及び、機関がこの条約に従い行動することを確保すること。

(e) いかなる個人、団体又は、民間企業による障害に基づき、差別をも撤廃するためのすべての適切な措置をとるべき。

(f) 第2条に定める、ユニバーサルデザインを用いた物品(製品)、サービス、備品(設備)及び、施設についての研究及び、開発を開始し又は、促進するべき。この場合において、

これら物品(製品)、サービス、備品(設備)及び、施設は、障害のある個人に特有の必要(ニーズ)を満たすため、それらの供給及び、使用を促進するため並びに、基準及び、指針の策定の際のユニバーサルデザインの採用を促進するため、可能な限り、最小の調整及び、最小の費用を要するものとすべきである。

(g) 負担可能な費用の技術(機器)を優先して、障害のある人に適した、新たな技術(機器)(情報通信技術(情報通信機器)、移動補助具、補装具(補助器具)及び、支援技術(支援機器)を含む。)についての研究及び、開発を開始し又は、促進すること、並びに、そのような新たな技術(機

器)の供給及び、使用を促進するべき。

(h) 移動補助具、補装具(補助器具)及び、支援技術(支援機器)(新たな技術(機器)を含む。)(に関する並びに、他の形態の援助、支援サービス及び、施設(設備)に関するアクセシブルな情報を障害のある人に提供すること。

(i) この条約において、認められる権利により、保障される支援及び、サービスを一層効果的に提供するため、障害のある人と共に行動する専門家及び、職員に対する当該権利に関する訓練を促進すること。

2 各締約国は、経済的、社会的及び、文化的権利に関して、これらの権利の完全な実現を漸進的に達成するため、自国における利用可能な手段(資源)の最大限の範囲内で、

また、必要な場合には、国際協力の枠内で措置をとることを約束する。

ただし、この規定は、この条約に含まれる義務であって、国際法に基づいて即時的に適用可能なものに影響を及ぼすものではない。

3 締約国は、この条約を実施するための法令及び、政策を策定し及び、実施するに当たり、並びに障害のある人と関連する問題についての他の意思決定過程において、障害のある人(障害のある子どもを含む。)(を代表する団体を通じて、障害のある人と緊密に協議し、かつ、障害のある人を積極的に関与させる。

4 この条約のいかなる規定も、締約国の法律又は、締約国において効力を有する国際法に含まれる規定であって、

司法と福祉の架け橋

文化体育部長 久保 親志

はじめに

家族や支援者、さらに居場所もなく、劣悪な生育歴の中で、福祉と結びつくことがない障害者や高齢者がいること。

彼らが、生きていくために罪を犯し、その、罪がおにぎり一個の万引きや無銭飲食・無賃乗車のような微罪で、繰り返し刑務所に入ることによって生きのびていることを、私は、これまで何回も主張してきました。

出所後の障害者や高齢者の再犯を防ぐためには、裁判から矯正施設といった、繋ぎ目で福祉の支援を行うことが重要なのです。そこで、「地域生活定着支援センター」が発足したのです。地域生活定着支

援センターは、刑務所を出所した障害者や高齢者の社会復帰を促し再犯を防ぐため、平成二二年七月に、保護観察所と協働し、厚生労働省の補助事業「地域生活定着支援事業（現在は地域生活定着促進事業）」を根拠として設置が始まり、平成二四年三月に全国四七都道府県に設置されたのです。これから、累犯障害者・高齢者を支える次のステップに踏み出そうとしています。

シンポジウムでの学び

九月十日(土)、西南学院大学チャペルを会場に「下関駅放火事件から十年・累犯障がい者・高齢者を支える包摂型地域創造シンポジウム」が開

催され、参加しました。基調講演の講師は、村木厚子氏(元厚生労働省事務次官)でした。



村木氏は、「郵政不正冤罪事件」で大阪地検特捜部に逮捕勾留された経験を持ち「検察の在り方検討会議」で意見を述べています。

演目は、「共生社会を創る」です。その、講演で着目したのは「負の回転ドア」の項目でした。周囲の無理解で必要な福祉サービスが受けられない。居場所がなく、孤立する。

そして罪を犯し、家族や周囲との関係が崩壊・破壊する。

孤独や生活苦が深まり、罪を繰り返す。犯罪を繰り返す障害者や高齢者には、こうした「負の回転ドア(連鎖)」があると指摘された。支援センターは、罪を償った直後から必要な福祉サービスにつないで負の連鎖を断ち切る支援を展開する働きをします。

続いて、「福岡県地域生活定着支援センター」の活動報告がありました。福岡県地域生活定着支援センターは、平成二二年七月に設置されました。

北九州市でホームレス支援などを続けるNPO法人「抱樞(ほうぼく)」（奥田知志理事長）が福岡県の委託を受けて活動している。小畑孝仁センター長の話によると、平成二二年から今年七月までの約六年間で総数四〇五人を支援したということでした。厚生労働省の資料によれば、地域生活定着促進事業における、

JR九州筑豊本線(若松線)に DENCHA デビュー

架線式蓄電池電車

一方で駅無人化計画

車両はバリアフリー化されても利用できない障害者

10月19日、JR九州筑豊本線(若松線)に新型車両が導入された。若松線は折尾駅で立体交差されており、交差部分の高さが不十分なため、架線が通せず電化されていない。既存のディーゼル車両を音の静かな電車に入れ替えるため、架線がなくても走れる蓄電池式の車両を導入した。

架線式蓄電池電車・架線区間で充電した蓄電池で、架線のない区間でも走れる電車である。バリアフリー・ユニバーサルデザインを追求した視認性の良い液晶画面『マルチサポート』(ジョン) (JR News Release より)で案内等表示される。もちろん、車椅子・ベビーカースペースもあり、トイレもある。

導入を知り、体験乗車を試みた。折尾駅発11時14分が始発。乗車前に写真も撮ろうと、早めに駅構内へ行った。

ところが、駅員が来て出発式を若松駅でするため、本日限りではあるが折尾駅はその電車が到着後折り返して出発することのこと。1時間待ちになった。いったん出て再びホームについてみると幼稚園児たちが並んでいた。到着するDENCHAを出迎えるためである。スルスルとDENCHAが入って

くると小旗を振りながらみんなを出迎え、その後、車内を見学してホームから出発を見送っていた。走り出した車内でも乗客があちこちとカメラを向けていた。

床材にも「DENCHA」のマークのデザインが取り込まれていた。

到着の若松駅にも、たくさんギャラリイがいて、車体



を撮りまくっていた。

帰宅後の夕方ニュースを見ていると「DENCHA」運行開始のニュースとは別に、地元市議が、駅無人化再考の申し入れを行ったとのニュースが。JR九州では、今年3月にも9駅が無人化されているとのこと。

若松線の各駅は、ホームと車両との段差が、かなりあり、スロープの設置が必要なので、一人での乗降は難しい。

JR九州は、「駅員の代わりにインターホンなどを設置し、遠隔操作できるシステムを導入する(テレビ西日本ニュース)としているが、乗降に人的サポートが必要な交通弱者に、どう対応するのだろうか。

「JCT」、この若松線はワンマン運転区間である。

経営合理化とはいえ、矛盾も甚だしい。

北九州支部 白川 長廣

《 今月の時事 》

*5月27日広島でオバマ大統領と安倍総理が訪問、安倍総理は「我が国は唯一の戦争被爆国として、現実的で実践的な取り組みを着実に積み重ねていくことにより、核兵器のない世界を実現する重要な使命があります。」挨拶。あれから5ヵ月後、10月27日国連総会1委員会(軍縮)で、核兵器を法的に禁止する「核兵器禁止条約」について来年から交渉を始めるとの決議案が、123カ国の賛成多数で採択された。核保有国の米ロ英仏など反対、加えて、唯一の戦争被爆国である日本も反対した。被爆者らから厳しい批判が出た。政治家は「平気で辻褄の合わない～ウソをいうものなのか」と。今回の「決議」に被爆者の「長い～道のりでの活動を賛成国は讃えた」が、日本国は反故したのだ。*13年5月から始めた大規模な金融緩和で、物価2%上昇～二年程度で達成を目指したが、18年4月までとなる任期中の達成を断念することになった。黒田総裁は、アベノミクスの第1の矢を担った。異次元緩和策で「今後は物価が上がるという。インフレへの期待を生めば、投資や消費の動きが広まって経済は活性化し、賃金も上がる。」とのシナリオを描いたが。経済成長率も低水準に、消費は進まず(将来の不安～買控え)、賃金も期待通りに上がらず。格差はより拡大し、生活困窮者は増加、雇用・労働環境は劣化し、過労死・自殺者・精神障害者増となった。*「世界各国の男女平等の度合いを指数化した世界経済フォーラム(WEF)の2016年10月版「ジェンダー・ギャップ指数」で、日本の順位は調査対象144カ国のうち111位。前年より10下がり過去最低の水準。「男女の所得格差」で順位が大幅に下がった。項目別では「所得格差」が75位から100位に急落。WEFが収入の比較方法を改め、主に先進国で過小評価していた所得の差を実態に近づくように修正し、順位に反映した。～米国女性の平均所得は日本の女性より7割ほど多い。」*「差別と権利の間」に立ち止まり、漂っていても何も変わらない、怒りを持って振り返り、めざそう。・・・じっと 手をみる (しん)

会員・賛助会員の皆様、是非是非 意見・提言・雑感・本誌の感想など何でも可能。投稿をお願いします。事務メール添付・郵送・FAX等で送ってください。どうぞよろしくお願い致します。

- 編集 福岡県脊髄損傷者連合会 会長 藤田 幸廣
〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内6階
TEL&FAX:092-592-4528
E-Mail:fukusekiren-kasuga@cello.ocn.ne.jp
- 発行 九州障害者定期刊行物協会 頒価100円(会費に含まれる)〒810-0001 福岡市中央区天神1-16-1-7F

発行が大変遅くなり、申し訳ありません。寒くなりましたので、お体に気を付けてください。(坂本)

編集後記



この広報誌は、共同募金の配分金を受けて発行しています。